



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

約30年前、私は大学院生であったが、関連病院の某市民病院で医員として勤務していた。ある日、外来の後、生化学の教授が私を訪ねて来られた。学位の研究を、その教授の研究室でしないかというお誘いであった。教授は私の父と旧制和歌山中学の同級生であった。声をかけていただいたのがありがたく、難しそうな研究だけど何とかなるだろうと思ひ、お世話になることにした。同じく和歌山県出身の泌尿器科の教授は快諾された。

研究テーマは、腎臓からある酵素のタンパク質を分離・精製し、その酵素活性や機能を調べることであっ

だっただろう」と言われ、泌尿器科の教授の「君は褒めてもらっているんだ」という言葉の後は雑談だった。3月、中之島の公会堂で学位の授与式があった。指導教授からは、博士の学位は「独立して研究をしていくことができる資格」だと教えられた。この研究を展させるべく、大学院卒業後も診療の合間に、その素の遺伝子のクローニングを行い、さらにゲノム遺伝子の構造を調べた。遺伝子のクローニングは、同じ時期に、カリフォルニアの研究グループやアメリカ国立衛生研究所のグループと競争する結果となった。後に博士研究員として留学した米国の大学では、実際にこそ、自在に利用できる

## 〈52〉 「医学博士」

きで作図したり、データの写真を貼ったりしたものに、タイプライターで打った説明を加えて作った。自分で製本した分厚い論文を大学に提出し、年明けに審査となった。審査では、3人の教授と面接し、質問を受ける。別の生化学教室の教授が、「どれもきれいに精製できているね。大変

接する機会も多かった。米国では博士課程を修了すると、"Doctor of Philosophy" (Ph.D.と略す)の学位が与えられる。「哲学の博士」という意味ではない。これは医学にかかわらずあらゆる高学問についての博士を総括した呼称である。一方、Doctorにはもうひとつの意味がある。それは、医師(ドクター)という職業を表すものだ。約20年間、母校の医学部教員を務めてきた私にとって、昨今の大学医学部の教育は、短期的なニーズに合わせた職業教育を重視するあまり、振り回され、迷走しているようにも見える。学問としての医学の教育・研究を堅持するもつひとつの立場も大切であると思う。先行きが不透明な現代にこそ、自在に利用できる基礎力が必要だ。